

「平成 19 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成金贈呈式」を開催

～ 第 1 期生助成対象者／奨学生が集い、1 年間のチャレンジを誓い合う ～

財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(Yamaha Motor Foundation for Sports)では、4 月 24 日(火)、都内に平成 19 年度「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」及び「YMFS スポーツチャレンジ研究助成」の助成対象者、平成 19 年度「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」の奨学生を集め、『平成 19 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成金贈呈式』を開催した。



当日は、平成 19 年度「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」の助成対象者 13 名(2 名欠席)、「YMFS スポーツチャレンジ研究助成」の助成対象者 16 名、「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」の奨学生 3 名が出席し、ヤマハ発動機スポーツ振興財団の長谷川至理事長から贈呈書を受け取るとともに、一年間にわたるチャレンジの健闘を誓い合った。

第 1 期生を代表して挨拶に立った銘苺淳さん(ハンドボール選手／筑波大学 4 年)は、「全国各地、さまざまな分野で自己実現をめざすたくさんの仲間の中から選ばれ、第 1 期生として助成を受けられることに感謝の気持ちでいっぱい。目標到達に向けて不安がないと言えば嘘になるが、誇りと感謝の気持ちを忘れずチャレンジする。同期生の皆さん、がんばりましょう」と決意を表明。また、「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」の審査委員をつとめたラグビー選手の村田亙さん(ヤマハ発動機ジュビロ所属)からは、「夢は願うものではなく、叶えるものだと思います。常に感謝の気持ちを忘れず、皆さんそれぞれの夢の実現にチャレンジしてほしい」と、激励の言葉が贈られた。

なお、平成 19 年度の助成金額は、「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」が 15 件・合計 1,392 万円、「YMFS スポーツチャレンジ研究助成」が 16 件・合計 2,256 万円、「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」は 3 件・合計 360 万円(1 年分)。

【 贈呈式の様子 】



それぞれの目標を記したフラッグを囲んで記念撮影



長谷川理事長から贈呈書を受け取る1期生



審査委員の村田亙選手から激励の言葉が贈られた



チャレンジの目標を寄せ書きにしたためる1期生



互いの健闘を誓い合う1期生の皆さん

【 列席者のコメント 】

ヤマハ発動機スポーツ振興財団 理事長 長谷川 至



今回の助成事業は、昨年末にスタートしたばかりの当財団にとりまして、活動の第一歩となるものです。その志は、「チャレンジする精神が共感・賞賛される社会づくり」、そして「社会にとって有用な人材の育成」にあります。歩みを始めたばかりの当財団にとって、こうした目標は非常に高く、また高邁であることは十分に認識しておりますが、皆さんが高い目標にチャレンジすると同じように、私たちもチャレンジスピリットを大切に、目標達成に向けて頑張ってまいりたいと思います。

今回の募集においては、大変たくさんの応募をいただきました。そのたくさんの応募の中から選ばれた皆さんは、それぞれの目標に向けて、自信と誇りを持って果敢にチャレンジしてください。もちろん結果は大切ですが、それ以上にプロセスや諦めない情熱こそ重要なのだと私たちは考えております。

皆さんが自ら設定したゴールやハードルは、決して低くはありません。当然のことながら、途中、幾多の困難や苦しみがあるかと思えます。しかし、それらはチャレンジには必ずついてまわるものです。だからこそ、乗り越えたときに大きな達成感や自信を得られるのであり、そうした自己の成長がまた新たな目標と可能性へのチャレンジにつながるのです。

一年後の成果報告会では、ここに集まったメンバー全員が、笑顔で再会できることを願っております。

平成 19 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成 審査委員長 浅見 俊雄



今回は短い応募期間にもかかわらず、応募総数 191 通と多くのチャレンジャーから申請をいただきました。ジャンルも多彩で目標値やハードルも非常に高く、何より申請者のすべてが「熱いチャレンジスピリット」にあふれていたことから審査の過程ではたいへん苦労しました。

新しい発見や感動は、「何かを成し遂げたい」という情熱から生まれ、その精一杯の行動が、人々の共感と賛同を呼び、そして未来を切り拓きます。

皆さんには、情熱と可能性があります。その可能性を信じて、どうか自分自身の未来を、自分の手で切り拓いてください。応援しています。がんばりましょう。

平成 19 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成 審査委員 村田 亙



私自身、31 歳の時、ラグビー選手としての可能性を信じ、単身フランスに渡ってプロのラグビー選手として未知の世界に挑戦したことがあります。まわりにはずいぶん止められましたが、夢を後押ししてくれる家族の応援があって、その第一歩を踏み出すことができました。

夢は願うものではなく、叶えるものだと思います。常に感謝の気持ちを忘れず、皆さんそれぞれの夢の実現にチャレンジしてください。お互いがんばりましょう。

平成 19 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成 第 1 期生代表 銘苅 淳



全国各地、さまざまな分野で自己実現をめざすたくさんの方々の仲間の中から選ばれ、第 1 期生として助成を受けられることに感謝の気持ちでいっぱいです。

私には夢があります。ハンドボールにおけるアスリートとしての競技力向上と、マイナー競技であるハンドボールを普及・発展させたいというものです。私はこの一年を、背伸びせずに背筋を伸ばして自分らしくやっつけていこうと思います。そして笑顔を絶やさず、自分だけでなく、私にかかわってくれる人たちと楽しさや喜びを共有したいと思っています。目標到達に向けて不安がないと言えは嘘になりますが、誇りと感謝の気持ちを忘れずチャレンジします。

同期生の皆さん、ともにがんばりましょう。

平成 19 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成 第 1 期生 小島 智子

NFL タンパベイ・バッカニアーズのチアリーダー、小島智子です。本日は贈呈式に出席できず残念に思います。私はすでにアメリカに渡り、チャレンジを開始しています。おかげさまで 4 月上旬に行われたオーディションに無事合格し、日本人初の 5 年連続、そして日本人最長の NFL チアリーダーとなりました。すでに新しいチームの活動も始まり、興奮しつつ忙しくも楽しい日々をすごしています。

これからは試合でのチアリーディング活動のほか、施設訪問や地域ボランティア活動も多くなります。大変ではありますが、私が夢を追いかけ、夢に生き続けることが次世代のチアリーダーへの道を拓き、チャンスの扉を開けることに繋がると信じております。この 1 年、たくさんの方々のことを学び、夢を追いかけている多くの方々に、勇気と感動を与えられる存在に成長したいと思っております。

※欠席のためメッセージを代読

「YMFS スポーツチャレンジ体験／研究助成」「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」の概要

「YMFS スポーツチャレンジ体験／研究助成」は、①「世界に翔くたくましい人材の育成」②「国民のチャレンジスピリットの喚起」③「各種スポーツの普及・振興」をめざした(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団の助成金交付制度です。本制度には、自己のキャリアアップやスキルアップを目的とした各種体験活動に対して助成金を交付する「YMFS スポーツチャレンジ体験助成」と、スポーツにかかわる学問・研究活動に対して助成金を交付する「YMFS スポーツチャレンジ研究助成」の 2 部門があり、1 件あたりの助成金は個人 100 万円、グループ・団体 200 万円を上限とし、交付期間は 1 年間を原則としています。

一方、「YMFS 国際友好スポーツ奨学金」は、スポーツの普及・振興にかかわる学問・研究に取り組む国内外の留学生を対象とした奨学金給付制度で、奨学金は大学生 7 万円、大学院生 10 万円(ともに月額)とし、給付期間は 1 年または 2 年間を原則としています。